

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

令和2年度 第2回 地域協議会 議事録

- 日 時：令和3年3月18日（木） 19：30～20：30
- 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
- 議 題：1. 病院の近況について
2. 収支状況等報告
3. その他（意見交換）
- 出席者：松本雅彦（大宮医師会会長）、遠藤俊輔（自治医科大学附属さいたま医療センター長）、松浦祐史（さいたま市保健福祉局地域医療課長）、西元渉（さいたま市保健福祉局地域医療課主事）、田中孝之（さいたま市北区自治連合会会長）、黒田豊（院長）、小池信行（副院長）、菅原養厚（副院長）、文才理（看護部長）、五井周一（事務長）、藤原司（事務長補佐）、工藤夕貴（地域連携室係長）、佐藤弘明（総務係 書記）
- 欠席者：中條洋（院長補佐）
青木龍哉（さいたま市保健福祉局理事）
- 院長挨拶
- 委員紹介
- 議長の選出：遠藤委員

1. 病院の近況について（五井事務長）

（1）新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響及び現在の診療体制について

・感染拡大に伴う影響

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度は外来患者数が大幅に減少した。2月までの累計平均患者数は前年度対比で35%減となった。

入院患者数も6階病棟を本年度4月より新型コロナウイルス感染症専用病棟としたことから当初の計画に遠く及んでいない。健診については、年度当初の4・5月は職員健診以外実施できなかったことにより大きく出遅れ、6月以降は通常体制とし年度計画に近づけるべく取り組んだが、最終的には計画を大きく下回る見込みである。

・病棟

6階病棟を本年度4月8日より新型コロナウイルス感染症陽性患者受け入れ専用病棟とし、最大で陽性者24床、疑い患者4床の受け入れ体制とした。更に、年末の感染症拡大により6階病棟が満床近くまで患者数が増加したため、5階病棟（地域包括ケア病棟）の一部病床10床を専用病床（最大6床まで受け入れ可）として1月25日より陽性者30床の受け入れ体制に拡大した。

・外来診療

外来診療につきましては、昨年春より昼間及び夜間の患者出入口を1カ所とし、入り口で発熱チェックを行い、疑い者については通常の患者様と動線を分けて内科外来の隔離室で診療を行ってきた。なお、2月以降発熱患者数は減少傾向である。

(2) 新型コロナウイルス感染症の院内発生並びにワクチン接種の開始について

2月9日（火）、5階病棟に入院中の患者様及び職員に新型コロナウイルス感染が確認されたことから、感染拡大を防ぐため、予定入院の延期、緊急性のない予定手術、検査の延期などの診療制限、更に発熱患者様の紹介及び救急の受け入れも一部制限していたが、3月15日、当該病棟入院患者様全員に対し再度PCR検査を実施した結果、全員の陰性を確認できたので、制限を解除し3月16日（火）より通常の診療体制に戻した。

今回の新型コロナウイルス院内感染発生により、入院中の患者様、医師会の皆様、近隣医療機関の皆様には大変なご迷惑とご心配おかけ致しましたことを心からお詫び申し上げます。今後は院内教育を徹底し一層の感染防止策に努めてまいります。

なお、当院は3月8日より当院職員に対する新型コロナウイルスワクチンの接種を開始しております。

(3) 地域連携について

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、紹介患者数が前年度対比10.7%減と大きく落ち込んだものの、緊急紹介件数は前年度対比72.2%増と大きく上回っている。

病診連携や病々連携、近隣の高度急性期病院（自治医科大学附属さいたま医療セ

ンター及びさいたま赤十字病院)との診療連携、大宮双愛病院との機能分化推進のため連携協定、回復期リハ病院(さいたま市内10医療機関)や介護施設との連携強化に引き続き取り組んでまいります。

また、院外広報誌「きたまち」の定期発行の充実を図ってまいります。

(4) 在宅医療について

新型コロナウイルス感染症拡大による影響の中、病院に併設されている訪問看護ステーション及び居宅介護支援センターや地域包括ケア病棟(5階)の運用により、在宅医療につきましても引き続き力を入れていきます。

(5) 医療人材育成について

前年度に引き続き、自治医科大学附属さいたま医療センターの初期研修2年目の研修医を4月より受け入れて、初診、救急、訪問診療を中心に研修を行っている他、さいたま市民医療センターからは10月12日~12月6日までの期間1か月交代で各1名の研修医を受け入れた。

医師以外では、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により一部延期があったものの、看護部、薬剤部、臨床検査科、栄養管理室、視能訓練士、歯科衛生士、MSWも積極的に研修を受け入れており、今後も医療人材育成に力を入れていく。

(質疑応答)

—松本会長:新型コロナウイルスワクチンの1回目の接種はおおよそ終了したと思うが、全職員に対して希望者の割合はどれくらいか。

—五井事務長:接種希望者は7割~8割程度。

—松本会長:これから大宮医師会会員も接種が開始されると思うが、貴院と医師会で連携し日程や時間等をコントロールしてもらいたい。例えば、医師会では休診日の多い木曜日や土曜日でも医師が接種できるよう調整するので、貴院は歯科医師や薬剤師など医師会と相談しながら役割分担をしっかりと行っていきたい。他医療機関からの予約受付システムが開始されると思うが、受け入れ体制についてはどのように登録しているのか。

—五井事務長:予約システムの受け入れ体制については、4月以降、平日午後実施、1日

最大100名で埼玉県へ登録しているが、詳細については現時点では不確定である。

—遠藤センター長：院内感染発生の対応について、地域包括ケア病棟の患者はどのように対応したか。

—院長：陽性患者は直ちに6階病棟へ転棟させ、陰性が確認できるまで6階での入院を継続した。自宅に退院する患者については、家族にその旨説明し陰性を確認後退院していただいたが、施設への退院は判断が難しく入院を継続させた。

—遠藤センター長：感染防止対策のマニュアル等はあるか。

—院長：マニュアルはある。6階病棟看護師はしっかりマニュアルを遵守していたが、5階病棟の看護師は手袋の付け方やガウン交換等について徹底されていない部分があった。

—遠藤センター長：院内感染発生により、地域包括ケア病棟の稼働はどれほど減少したか。

—院長：入院患者全員にPCR検査を実施した3/15時点で58床中15名まで減少した。

—遠藤センター長：これから送別会や歓迎会の時期だが、職員の行動変化についてはいかがか。

—院長：飲食を介しての感染発生がないので一人一人が我慢していると思う。三密回避のアナウンス及び休憩室へのアクリル板の設置と飲食時の会話禁止を徹底している。また、人事異動に伴う送別会等は禁止している。

—遠藤センター長：自治医大さいたま医療センターは4人以上の会食を禁止している。新入職員のプロ意識が懸念されるところだが、今後も情報共有をお願いしたい。

—田中会長：昨年は外来患者を制限し、一時期は熱があっても診てもらえないという声を聞いていたが、現在は発熱患者を診察していただけるか。

—院長：現在は制限していない。正面玄関で検温し、発熱患者については外からの動線で通常とは別の診察室にて診察している。

—松本会長：他の病院が発熱患者を受け入れてくれない状況の中、貴院は早い段階から受け入れてくれた。医師会としては非常に助かった。

—田中会長：院外広報誌「きたまち」の説明があったが、地域住民にも広く周知したいので、院外広報報をさいたま市北区役所にも配布してもらいたい。コミュニティー課に相談してみたい。

—院長：ぜひ配布させていただきたい。

—田中会長：さいたま市から何も案内が来ていないが、新型コロナウイルスワクチンの一般接種はどのようにしたらよいか。

—院長：まだ詳細が決まっていないのでお答えできない。

—松浦課長：やはり詳細が決まっていないので、厚労省から通知等が来たら情報共有させていただく。

2. 収支状況等報告（藤原事務長補佐）

令和2年度は経常利益約2億8千万円の黒字を見込んでいるため、事業計画対比では、約1億5千万円の増収となる見込み。新型コロナウイルスの影響により入院患者及び外来患者数が大幅に減少しているが、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金等により大幅な増収となったことが要因となっている。令和3年度の事業計画については、新型コロナウイルスの影響を除いて、約1億5千万円の経常利益を計画している。

—松本会長：前回の地域協議会では約9千万円の赤字を見込んでいたが、結果的に黒字になる見込みの差額は補助金か。

—院長：その通り。補助金がないと約7億の赤字が見込まれた。

—遠藤センター長：今後の増収計画はいかがか。

—院長：昨年10月より常勤の整形外科医が着任したことで徐々に患者数が増えてきたが、新型コロナウイルスの影響による自粛生活で骨折する患者が減少したこともあり、患者数が伸び悩んでいる。何かアイデアがあったらご教示願いたい。

—松本会長：休日急患センターの患者数も減少したままで元に戻りそうもないのではな
いか。

—遠藤センター長：緊急紹介件数が前年度対比72%増加したが、要因は何か。

—工藤係長：医師会の先生方からの発熱患者の紹介が大きな要因と考えられる。当院は
早い段階から発熱患者を診察できるよう整備しており、医師会の先生方への周知がうま
く図られた結果と考えている。

—松本会長：発熱患者は貴院へ紹介すれば診てもらえるということが周知されたのだと
思う。

3. その他（意見交換）

—松浦課長：ゴールデンウィークや年末年始など長期間の休みの際、行政としてどのよ
うに支援できるか検討するためにご意見があれば頂戴したい。

—院長：今年のゴールデンウィークは患者数も多くないことが予想されるため、例年の
小児科医師の増員はしなくてもよいのではないか。

—松本会長：新型コロナウイルス感染防止対策の影響もあるのか、感染症自体減少して
いるため、患者数も少ないことが予想される。

—田中会長：ブリッジ設置の計画はその後進展ないか。地域住民のためにもぜひ進めて

もらいたい。

—院長：進展はなく、黒字経営にならないとかなり厳しい。新病院建設の際、東京オリンピックの影響で鉄骨など材料費の高騰により当初予算の倍以上の設置費用となったと聞いている。なお、現在入口を正面玄関のみに限定しているので、もし設置されていたとしても、新型コロナウイルスの影響で使用できない。

次回開催について

—藤原事務長補佐：令和3年度第1回は10月開催予定とさせていただきたい。日程調整のうえ後日あらためてお知らせする。

以上